



もっと・ずっと  
社会のために

# COOP SAPPORO CSR REPORT 2014

コープさっぽろ  
CSRレポート2014



コープさっぽろ経営企画室

札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501  
TEL.011-671-6620 / FAX.011-671-5752  
<http://www.coop-sapporo.or.jp/>



コープさっぽろの「マイナスCO<sub>2</sub>オペレーション[二酸化炭素削減活動]」  
CO<sub>2</sub>削減への取組を通して、環境に関する理解を深めエコ活動を推奨、  
エコロジー(環境保全)とエコノミー(経済活動)の両立の実現を目指しています。



編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

**●報告対象期間**  
2013年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2014年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2014年3月20日現在のものです。

**●ホームページでの情報公開について**  
コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2013年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。(当該情報に関するホームページの公開は、2014年6月を予定しています)

CSRレポート掲載URL  
[http:// www.coop-sapporo.or.jp](http://www.coop-sapporo.or.jp)

**●発行年月および次回発行予定**  
2014年5月発行。  
次回は2015年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先  
生活協同組合コープさっぽろ経営企画室  
〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10-1  
TEL. 011-671-6620 FAX. 011-671-5752

CONTENTS

コープさっぽろの事業と活動..... 01

巻頭特集

目が届く、安心が街に行き届く  
～北海道との包括連携協定と、コープさっぽろの「見守り」～  
..... 02

2013年度活動報告

**食** Special Story  
もっと「おいしいお店」へ..... 06

- 産地交流や食の情報発信を通して北海道の食文化の確立を目指しています..... 08
- 安全・安心な食、高い品質の食をお届けするための取組を進めています..... 10

**環境** Special Story  
コープさっぽろの循環型事業モデル..... 12

- 環境にやさしい暮らしのあり方を組合員と共に考えています..... 14

**地域貢献** Special Story  
いざという時の安心のために..... 16

- 自治体・地元企業・団体と協力しながら安全・安心と元気を地域に広げています..... 17

**子育て応援** Special Story  
子どもの健やかな成長を支えるために..... 19

- 未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援しています..... 20

**組合員活動** ●地域へ、国内へ、世界へ、助け合いの心による活動を届けています..... 22

- 子どもからお年寄りまで、みんなで楽しめる場をつくっています..... 24

**eco product 2013** コープさっぽろ2013年度環境報告..... 26

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろの基本姿勢・環境理念と環境方針 ..... 28  
沿革..... 29  
基本情報..... 30  
組合員動態..... 31  
事業所数と形態..... 32  
第三者意見..... 33

コープさっぽろの事業と活動

生活協同組合とは、より豊かな暮らしの実現のため、それぞれの持つ力を寄せ合い、一つの意思の下に活動する組織です。

コープさっぽろは組合員の豊かで安心な暮らしを創造することを目標として、5つのテーマの下に多彩な事業・活動を行っています。

環境

(P12～15)  
新エネルギーへの移行を促す取組や啓発活動を進めます。同時に事業活動の環境負荷低減に取り組んでいます。

- 環境受賞(北海道ゼロ・エミ大賞、グリーン購入大賞)(P12)
- ノーレジ袋運動(P13)
- コープ未来(あした)の森づくり基金(P13、15)
- エコセンター(P13、15)
- BDF(P13)
- ECO・OP(P13)
- カーボンフットプリント商品表示(P13)
- BEMS・LED照明導入(P13)
- メガソーラー(P13、15)
- バイオガスプラント(P13、15)
- 北海道の森を元気にしよう! 共同キャンペーン(P14)
- ホッキョクグマ応援プロジェクト(P14)

食

(P06～11)  
食の安全・安心を守り、北海道の持続可能な食料生産に貢献。組合員と生産者の交流を深める活動も進めています。

- 「おいしいお店」リニューアル(P6)
- 新レジシステム開発(P7)
- アレルギー配慮商品コーナー(P7、P19)
- なるほど商品(P7)
- 商品開発(黄金そだちシリーズ、北海道100、フェアトレード商品ほか)(P7)
- 広報誌『Cho-co-ito』(P7)
- ご近所やさい 藤野農園(P8)
- 畑でレストランがフード・アクション・ニッポン アワード 2013受賞(P8)
- ホイリゲ北海道(P9)
- 食育研究会(P9)
- 高校生チャレンジグルメコンテスト応援(P9)
- 農業賞のついで(P9)
- コープ配食サービス(P10)
- エソシカ肉取扱い開始(P10)
- 宅配デリカ実験(P11)
- 新農産セットセンター(P11)
- 日本トレーサビリティ協会と食品表示検定協会(P11)

北海道と包括連携協定締結(P2)

コープさっぽろ

地域貢献

(P16～18)  
誰もがくらしやすい地域づくりを目指しています。特に高齢化社会に伴う地域の見守りに力を入れています。

- AED全店設置(P16)
- 江別市と災害時における救援物資管理配送に関する相互協定調印(P16)
- 見守りドック(P17)
- おまかせ便カケル(P17)
- エリア職員制度(P18)
- はまなす食品拡大(P18)
- 札幌市とまちづくりパートナー協定(P18)
- 高齢者見守り協定(P18)
- 地域まるごと元気アッププログラム(P18)

子育て応援

(P19～21)  
子育て支援基金を設立し、子どもの成長と子育て家庭を応援するさまざまなプログラムを実施しています。

- 「産後のカラダにいい本」配布(P19)
- えほんがドック(P20)
- 図書館に絵本贈呈(P20)
- 食べる・たいせつフェスティバル(P20)
- おしごとキッズ(P21)
- 一時保育トドクルーム(P21)
- 子育てサポート(P21)
- 子育て応援プログラム(P21)

組合員活動

(P22～25)  
食やくらしの安全・安心を中心に、組合員の希望や関心に応じてコミュニティづくりを促しています。組合員なら誰でも参加できます。

- イランカラブテキャンペーン(イオン北海道共同募金)(P22)
- 福島の子どもの保養プロジェクト(P22)
- プータン水と衛生プロジェクト(P23)
- フィリピン台風被害緊急募金(P23)
- コープ会(P23)
- コープくらし助け合いの会(P23)
- 文化教室&キッチンスタジオ(P24)
- 文化鑑賞会(P24)
- 映画『じんじん』応援(P25)
- 各種イベント開催(P25)

# 目が届く、安心が街に行き届く

～北海道との包括連携協定と、コープさっぽろの「見守り」～



## Interview

### 大見英明

コープさっぽろ理事

#### コープさっぽろの成長とは 北海道でより良い未来を目指すこと

コープさっぽろは北海道の生活協同組合であり、道内150万人の組合員が出資し、運営に参加して成り立つ事業体です。私たちの成長の大前提には北海道が良くなるということがあり、「北海道の食を支えるインフラ」となるべく事業を充実させてきました。さらに全道108店舗、週間30万人の利用がある宅配システムと物流網、取引先800社を加えた人と人とのネットワークなど、事業で培ったインフラは全道域に及びます。私たちの事業と北海道が目指す社会とは共通するものも多くあり、'13年に北海道と包括連携協定を結びました。その取組分野は、大きく分けると環境、子育て、食、地域づくりです。

#### コープさっぽろの取組が 北海道との連携で発展していく

環境への取組では、'08年からCO<sub>2</sub>排出削減・循環型の事業モデルをつくり、森づくりや木育、道内の林産資源の有効活用、エネルギーの地産地消へと発展させてきました。北海道との連携協定により、サッポロビール社・北海道とカーボンオフセットの取組が実現しました。

次に、将来を支える子どもたちを健やかに育てるため、私たちは子育て家庭を応援しています。親子の愛情関係を育み、文化継承を進める絵本を贈る事業と、保育園・幼稚園での読み聞かせを行って来ました。昨年公立図書館へ絵本を贈呈しています。

食はTPPによる農業自由化・グローバル化の中で、北海道の食をどう守るか、という課題が生まれています。それには道産品の価値を高め支

持を増やすこと、素材を軸にした食の発展が必要です。昨年は、農業被害をもたらすエゾシカの肉を新たな食文化にする取組を始め、北海道と協力し養鹿・加工処理・検査・トレーサビリティまで安全を担保して流通販売するしくみをつくることができました。

#### 高齢化など社会の問題に 事業で答えを出すのが私たちの役割

そして今、北海道が抱える大きな社会問題は高齢化です。'25年に後期高齢者数はピークを迎えるため、高齢者世帯の見守りの必要性が増しています。私たちの宅配網は全域に広がっているため、行政に代わって見守りの機能を果たせるよう、各市町村と高齢者見守り

## コープさっぽろ × 北海道 包括連携協定 で目指す社会

協定を結んできました。北海道との連携により調整がスムーズになり、'13年度で90市町村、道内の過半数の市町村と締結できました。'14年度は宅配職員の「気付きの力」を高める教育を実施します。

事業の中に新たな枠組みを作り、社会の問題や困難の解決を図るのがソーシャルビジネスです。コープさっぽろはこれから、北海道というステージの中で、問題解決型の事業を進化させていく役割を期待されます。今後新しい課題に真正面から向かって、取組を進めていきたいと思

#### 組合員が支える意識高い活動と 北海道への貢献に感謝します

コープさっぽろの組合員の方々は、商品の購入のみを目的とした単なる顧客会員ではなく、くらしや子育て支援などさまざまな分野でボランティア活動に積極的に取組み、地域の発展に大いに貢献されてきました。

こうした中、北海道とコープさっぽろは'08年11月に森林づくりに関する連携協定を締結し、'13年2月には安全・安心な地域づくりや子育て支援、食の振興など、4項目を追加した包括連携協定を締結しました。新たな分野においても、北海道が持つ情報や人的ネットワーク、コープさっぽろの宅配網や数多くの店舗、150万人の組合員の皆さんの活動経験の蓄積など、互いの良

さを十分に生かして地域課題の解決や公共サービスの充実など、北海道が元気になるよう協働で取組んでいきたいと思

#### 昨年度の象徴的な取組に 北海道が思う評価

特に昨年度、北海道とコープさっぽろ、サッポロビールの3者の協働によるカーボン・オフセットの取組により、森林保全活動の重要性や森林整備を進める取組を多くの方々に知っていただきました。「さっぽろ」という名前を持つ、北海道に根ざした大手企業が連携したこの取組を契機と

コープさっぽろの事業は、北海道に循環型経済を実現し、社会が抱えるさまざまな問題を解決するために行われてきました。'13年2月7日、北海道と包括連携協定を締結したことで、安心な社会をどのように実現していくのか、「見守り」の取組を中心に、ご紹介します。

## Interview

### 山谷吉宏氏

北海道副知事

して、北海道と包括連携協定を締結する企業同士の連携が広がり、道内経済の活性化につながることを期待しています。

さらに、北海道の大きな課題であるエゾシカ対策として食肉として利用する取組を連携して行うことができました。安全・安心なエゾシカ肉を消費者に購入いただくため、独自の検査体制を作り上げ、消費者に身近なスーパーマーケットで店頭販売が開始されたことは大変画期的です。現在のところ、売上げも好調で、今後、販売店舗を増やすことも検討しているとうかがっており、この協働の取組が、エゾシカ問題の解決の一つの手がかりになると期待しています。

#### 高齢者の見守りを進め 安全・安心な街づくりへ

本道の高齢化率は全国を上回るスピードで進展し、昨年3月末時点で26.3%、2040年には40%を超えると推計されています。この中で、コープさっぽろと北海道の協働、また市町村との連携による「高齢者見守り協定」による高齢者の見守りネットワークは、緊急時にSOSが出せない独居や高齢者のみの世帯の安心につながり、大変心強く思っています。

私も20年ほど前、ある商店街の活性化と地域の高齢者対策として高齢者を支える見守り活動のような事業を提案しましたが、実現させられずに胸の中でしこりとして残りました。それが今、コープさっぽろとの協働事業として全道で取組まれていることに、昔の忘れ物を取り戻したような気持ちです。

今後活動がさらに充実することで地域での温かな見守りの輪が広がり、組合員の皆さん、そして高齢者の方々の一層の安全・安心な暮らしの確保につながることを期待しています。

# 目が届く、安心が街に行き届く

～北海道との包括連携協定と、コープさっぽろの「見守り」～

://www.etodok.jp

コープっていい

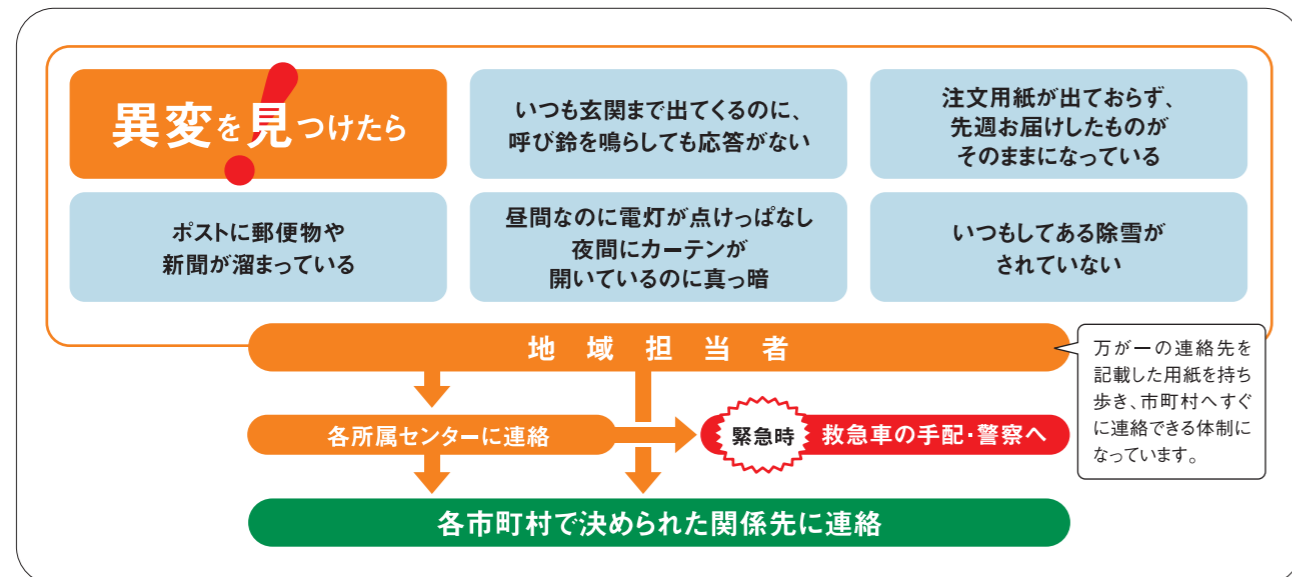
## コープさっぽろの見守り

北海道との包括連携協定の中の「安心・安全な地域づくりに関する事項」の最初の項目に「高齢者の見守り活動」があります。コープさっぽろは、宅配や配食網を活用して、高齢者の見守りに取組んでいます。

宅配ドックは毎週1回、ほぼ決まった時間に組合員宅を訪問して商品をお届けします。訪れる世帯の数は約30万世帯を数え、その中には高齢の一人暮らしや夫婦のみの世帯も多くあります。実際にお会いして会話を交わしながら商品をお渡しする方、お届け場所を決めて毎週同じ場所に注文用紙を出してくださる方、長期不在の連絡を入れてくれる方など、宅配の地域担当者はそれぞれの利用者の生活ペースやパターンを

感じています。そこで何か異変を感じたときに、市町村の担当者に連絡を取り、必要な対応をしてもらうための「高齢者見守り協定」(P18参照)を各市町村と締結しています。地域によっては消防との連携や、民間を含めた見守りのネットワークへの参加を行っています。

見守り機能をさらに強めるため、'11年度からは夕食の配食サービス(P10参照)、'13年度からは宅配ドックで「見守りドック」(P17参照)のサービスを開始しました。訪問の機会を増やすこと、また家族間のコミュニケーションのきっかけを増やすことで、地域担当者と組合員の「見守りの輪」を強くしています。



小さな違いに気付けるくらい、「地域担当者」に。



宅配事業本部長 八木 沼隆

異変に気付けるかどうかは、見守りする側と見守られる側の間に、いかに日常的なコミュニケーションが築かれているかにかかっています。コープさっぽろの宅配の配達を担当する職員の肩書きは、配達員でもドライバーでもなく「地域担当者」です。ですから、商品をお届けすることだけが仕事ではなく、その地域の一員として、見守りを含め地域を担当していると自覚して職員たちには仕事に向かってほしいと伝えています。担当者は、その地域に着任する際に自分のこと、子どもがいる

かどうか、趣味のことなど、自己紹介を担当者ニュースとして配っています。人となりを見れば、そこから親しみ生まれ、新たなつながりができるからです。調査をしたところ、8割の組合員さんが担当者の名前を覚えてくださっています。

気付くことは難しいことです。その力を高めるために、これまで事例の共有を行っていましたが、それらを「見守りバイブル」として編集して担当者に配布し、異変に気付くパターンを知り同じ視点から対応ができるよう進めています。例えば、家にお伺いしたときの一言目を、「先週お届けした商品はどうでしたか?」というところから「お変わりはありませんか?」とその方の生活全体を気遣う一言に変えていく。生まれる会話からより組合員さんの日常を知り、普段を知ることで異変に気付ける、そういう力を職員全体に養っていききたいと思います。

私の宅配コースには市営住宅があり、ご高齢の方が多く住まわれています。耳が遠い方もいらっしゃるので、いつでも「元気よく!」組合員さんのお宅に向うことがモットーです。お会いできた方には、お顔の色や具合が悪そうな時に声をかけ、留守の方は郵便受けなど、普段と変わったところはないか見るようにしています。

昨年の夏、70代のご夫婦のお宅に配達にお伺いしたところ、チャイムを押しても出ていらっしゃいませんでした。留守の場合は商品を物置に置く約束で、そこにいつもきちんと次回の注文書を出しておいてくださるのですが、その日はありませんでした。様子がおかしいと思い、家の周りを見てみたところ、中から「お父さん助けて!」と声が聞こえてきました。慌ててベランダ側に回りましたが、鍵がかかっていたので窓越しに「大丈夫ですか、救急車を呼びますか?」と声をかけました。すると「お

父さんと呼んで」とお返事があったので、同じ建物にあるオフィスでお仕事中の旦那様に知らせました。その後旦那様が救急車を呼び、病院に行かれ入院されましたが、命に別状はなかったということで安心しました。

この件を朝礼で報告したところ、ドライバー仲間から「私もそういう、普段と違う所を見ているよ」と伝えられました。普段は特に話し合いませんが、みんなに見守りの習慣が根付いているのだと感じました。自分が見守られる立場になったら、誰かが気にかけてくれるのはうれしいと思います。これからも、組合員さんとのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

ドック地域担当者 苫小牧センター 佐々木 美恵



普段と違うから、よぎった予感。組合員さんが助けを呼ぶ声をキャッチできました。



## Special Story もっと「おいしいお店」へ

食卓の準備に欠かせない毎日のお買物を、もっとおいしく、便利に、安心に。  
8年ぶりに「おいしいお店」の売場を見直したほか、商品開発からその食べ方の提案まで、おいしい食卓を応援しています。

### 家族構成やニーズに合わせた 売場をつくる「おいしいお店」

核家族化、少子化、高齢化など、時代とともに家族の形は変わり、生活や食卓のスタイルも変化していきます。コープさっぽろは、少量買い、品質や安全へのこだわり、または家族のイベントや歳時に合わせた商品の展開など、さまざまな組合員のニーズに合わせて、1997年から「おいしいお店」バージョンとして売場のリニューアルを進めてきました。リニューアル開始から10年後の'07年にはおいしいお店のあり方を見直し、基本となるコンセプトを打ち出しました。

それから現在までに店舗に求められる特徴もまた変化したため、'13年度より売場のリニューアルを開始しました。

### おいしいお店コンセプト(一部)

- ・生鮮食品は1個からの品ぞろえを実現
- ・品質が一定で高く維持された商品の取扱いを強化
- ・簡単便利で、すぐに食べられる商品を拡大
- ・変化のある売場づくりを追求
- ・「ハレ」の日に強い品ぞろえ
- ・作りたて、できたての商品提供
- ・料理見本や料理レシピによるメニュー提案
- ・地域独自の商品の取扱いを強化
- ・トレーサビリティの確立した顔の見える商品を拡大

### リニューアル実施店舗('13年度)

#### 計16店舗

(中央店、星が浦店、新橋大通店、かしろ店、星置店、藤野店、べつかい店、貝塚店、平岡店、岩見沢南店、川下店、倶知安店、余市店、神楽店、東光店、ほくと店)

### おいしいお店の主なリニューアルポイント

#### サラダの強化

自社製造に切り替え、カット野菜の強化やデリカ(惣菜)へメニュー化しました

#### 銘店の内製化

サービスカウンターに併設する形で常設化し、ハレの日の需要にさらにお応えできるようにしました

#### デリカコーナーの充実

中華・焼き鳥・米飯・魚惣菜を中心に、品ぞろえを1.5倍に拡大。ハイブリッドとして、室蘭市の志賀商店のノウハウに学んだ対面式の売場づくりを取り入れました



#### シーズドラッグの拡大強化

品ぞろえを2~3割増やしたほか、食品売場にも点在していた健康食品を一つのコーナーに。 Gondolaの並びを変更して食品売場からのアクセスを改善しました



#### 「ことPOP」を活用

担当者の写真入りのPOPでおすすめの情報を発信しています

#### 高齢者にやさしいお店

サッカー台の高さを抑え、買物カートを軽量化。トイレにも手すりを設けるなど使いやすい形にしました



#### 新レジシステム開発

性能を向上させ、レジの待ち時間が1割短縮。札幌近郊の40店舗に導入し、'15年3月までに全店の切り替えを予定しています

### コンセプトに立ち戻り 既存店の質を高めていく

リニューアルの際においしいお店コンセプトを見直し、「少子高齢化対応のできる店」「食の専門ニーズに応える店」「より簡単・便利ニーズに応える店」を目指しました。そこで高齢化により需要の増した介護食コーナーを新設しました。また、子どもたちのアレルギーに悩む声が増えており、アレルギー対応食品を集めたコーナーも設置しています(P19参照)。

そのほか、生産地である発展途上国に正当な対価を払って輸入されるフェアトレード商品や、トレーサビリティ情報が調べられる商品など、安全・安心をキーワードにした品ぞろえを全店で進めています。

### 安心と高品質を求める声に 応えるための商品開発

より高品質で、安全・安心な商品を求める声に応えるため、コープさっぽろはさまざまな商品開発を行ってきました。'08年に道内産原料を使用し、道内で製造・加工した「北海道100」、'10年には道産の飼料米で育てた「黄金そだちシリーズ」をリリースし、'12年には「黄金そだちシリーズ」の取組がフード・アクション・ニッポン アワードで大賞を受賞しました。

さらに'12年には、良質なものを低価格で、さらに道内で生産することで地産地消に貢献したいという思いから、プライベートブランド商品を販売開始しました。パッケージに商品の特徴がシンプルにデザインされ、こだわりや品質、

産地などが一目でわかることから「なるほど商品」と名付けました。

### なるほど商品販売実績

店舗	15.7億円 ('13年4月期~'14年2月期)
宅配	4.0億円 ('13年3月4週~'14年2月4週)
合計	19.7億円



▲「なるほど商品」の売場

### 「おいしい」を家庭に伝えるため 食の情報を発信しています

これらの品質や安全・安心へのこだわりが実現するのは、さまざまな生産者の努力や協力があることです。また、商品を「おいしく食べる」ことで、消費者が生産者や北海道の食を支持・応援するつながりができます。そこで、コープさっぽろは広報誌「Cho-co-tto(ちょこっと)」で、旬の食材やその生産地・生産者について伝え、一流の料理人や天使大学の学生などによる創作レシピで食材の食べ方の提案を行っています。組合員の食への興味やニーズに応え、北海道の食文化を発信していくことを、コープさっぽろは目指しています。



▲「Cho-co-tto」の表紙



## 産地交流や食の情報発信を通して 北海道の食文化の確立を目指しています

食を守るためにはまず、食について正しく理解を深めること。  
生産者と消費者の交流を深め、食に関する知識を伝えることで新たな食文化を育てています。

### 地域の新鮮な農産物を販売 「ご近所やさしい 藤野農園」オープン

’13年7月5日、藤野店に「ご近所やさしい 藤野農園」を開店しました。コープさっぽろでは以前から近隣の生産者の農産物を販売する「ご近所やさしい」コーナーを設けてきましたが、藤野農園ではその規模を拡大しました。道の駅風の販売所に、畑から直送した新鮮な農産物や有機野



▶コーナーの様子

菜に加え、冷蔵・冷凍ケースを設けて卵や、アイスクリーム・漬物などといった加工品を周年販売しています。以後はリニューアルを実施する店舗で藤野農園のミニバージョンの展開を続ける予定で、川下店で実施したほか、’14年度は野幌店で展開を予定しており、今後も地域の生産者と消費者をつなぐ役割を店舗でも担っていききたいと思います。

**成果を見る**  
藤野店 青果売上（’13年4月～’14年2月）  
55,436,292円（前年比462%）  
ご近所やさしい 藤野農園 参加生産者66名  
（札幌南地区、喜茂別、真狩、留寿都、江別、当別、栗山、恵庭、千歳、長沼、新篠津、仁木）ほか有機栽培生産者

### 「畑でレストラン」が フード・アクション・ニッポン アワード受賞

「コープさっぽろ農業賞」受賞生産者の畑でとれたての農産物を使い、名店のシェフがランチを提供する「畑でレストラン」。参加者は生産風景を見学し、生産者から食材の話を学ぶことができるほか、開催地によっては収穫や農作業を体験

することができます。’13年度は6～10月に、スペシャルを含めて19回開催し、毎回満員御礼の人気イベントとなりました。また、’13年12月3日には、国産の農産物の消費拡大の取組を表彰する「フード・アクション・ニッポン アワード2013」において、流通部門の優秀賞を受賞しました。

**畑でレストラン（’13年度、通常開催15回のみ）** ※店名は2013年4月当時のものです

開催日	開催地	シェフ	参加者数
6月16日	永光農園（札幌）	中国菜家 季清香 石井登氏	37名
6月23日	大塚ふぁーむ（新篠津）	ビストロボワル 早貨大吾氏	39名
6月30日	ファーム・レラ（東川）	旭川グランドホテル・シャンドール 武田学氏	27名
7月21日	はるか農園（千歳）	オステリアYOSHIE 吉江恵一氏	51名
7月28日	メノビレッジ長沼（長沼）	デイズキッチン創 笠原大介氏	43名
7月31日	ふれあい体験農園みたむら（由仁）	ラ・サンテ 高橋毅氏	37名
8月 4日	大塚ふぁーむ（新篠津）	札幌パークホテル 土谷則夫氏	44名
8月12日	余湖農園（恵庭）	クッチーナ・イタリアーナ・マトゥーロ 井藤史晃氏	45名
8月18日	上川町・フラテッロ・ディ・ミクニ（with当麻グリーンライフ）	トラットリア・ピッツェリア テルツィーナ 堀川秀樹氏	48名
8月25日	八剣山ワイナリー（札幌）	バルコ札幌 塚田宏幸氏	46名
9月 1日	ごとう農園（真狩）	フレンチレストラン バンケット 若杉幸平氏	49名
9月 8日	鈴木農園（三笠）	かんぱーにゅ 五十嵐光氏	31名
9月15日	余湖農園（恵庭）	デスコ 小割真樹氏	42名
9月22日	鶴沼ワイナリー（浦臼）	ビストロボワル 早貨大吾氏	50名
10月 6日	大塚ふぁーむ（新篠津）	TAKU円山 和田勇人氏	40名

### 新酒を祝う「ホイリゲ北海道」で 北海道のワイン文化を盛り上げます

北海道産のワインを応援する「ホイリゲ北海道」を’11年から実施しています。道内6ワイナリーの新酒「北海道ヌヴォー」の販売時期に合わせ、11月第3木曜日にワイン専門家の田辺由美氏を招き、白ワインをジョッキで楽しむオーストリアの「ホイリゲ」を模したイベントを行いました。また、田辺氏とワイナリーを訪ね、生産現場を見学・体験するツアーも2回実施し、参加者に北海道のワイン文化を楽しんでいただきました。



▶ホイリゲを楽しむ参加者たち

**成果を見る**  
ホイリゲ北海道を盛り上げるツアー  
全2回実施 | 9月23日 参加者23名  
11月23日 参加者40名

### 高校生のレシピ開発コンテストを応援 地産地消メニューを商品化しました

次世代を担う高校生が、地域の食材を利用し料理を作る「高校生チャレンジグルメコンテスト」が’13年から始まりました。地産地消の推進や、高校生が生産者の思いや食材の知識、地域の食文化にふれることはコープさっぽろの思いとも重なるため「コープさっぽろ賞」を設け、応援しました。受賞メニューは’14年2月に約70店舗で販売しました。



▲美幌高校へ「コープさっぽろ賞」の贈呈

### イタリアのスローフード文化と交流し 食の新たな価値を見出す「食育研究会」

新たな価値の創造を目指す食育教育のあり方について、取引先、農業賞受賞生産者、大学関係者、行政などと経験交流を行うために’12年7月に「食育研究会」を立ち上げました。これまで8回にわたりスローフード発祥の地イタリアに調査チームを派遣し、現地の生産者、大学などと交流を深めたほか、「ノバコープ（イタリア）」と消費者教育などの交流を結びました。また、お互いの国の伝統的な行事食（クリスマスとお正月）を題材にした子どもたちの交流も行いました。



▲伊達巻を切るイタリアの子どもたち

### 「コープさっぽろ農業賞」から 生産者と消費者の交流を続けています

安全・安心な食の提供に努める農・漁業生産者を、消費者の立場から表彰・応援する「コープさっぽろ農業賞」を’04年から実施しています。’11年で一区切りとして農業賞表彰は3年に1度としましたが、毎年「農業賞のつどい」で過去の受賞生産者と組合員の交流を続けています。参加者は、生産者の近年の取組を聞きながら、生産者の農産物を使った料理に舌つづみを打ちました。’14年度は農業賞表彰を実施します。



▶農業賞のつどいの様子

**成果を見る**  
農業賞のつどい（’13年度）  
参加人数 165名  
（生産者51団体88名、食育研究メンバー22名、その他55名）



## 安全・安心な食、高い品質の食をお届けするための取組を進めています

北海道の豊かな食材を美味しく味わう方法をさまざまな人と共に考えるほか、子育て世帯や高齢者世帯などの食卓を支える配食サービスを行っています。

### 栄養バランスの良い食事をお届け コープ配食サービスが拡大しています

食事の支度が困難な高齢の方の支援と安否の確認のため、'10年度から夕食の配食サービスを始めました。専任の栄養士により栄養バランスが調ったメニューは、普通食と低カロリー食が選べ、さらに主菜を常時2種類以上から選べます。'13年度は釧路工場が稼働を開始し、7月1日から釧路市・釧路町もお届けエリアに加わりました。

また、対象を高齢者以外にも広げ、'12年度には幼稚園給食を開始。'13年3月からは、産後の女性の負担軽減と母乳育児の栄養バランスを考慮した「産後のからだにうれしいごはん」を開始し、11月18日よりお届けエリアが札幌全域、旭川、北見に拡大しています。



◀メニューの一例

**成果を見る**

**コープ配食サービス('13年度)**

登録者総数 **25,800人** (前年比147.6%)

普通食 週12,304食、低カロリー食 週15,998食、  
 選べるメニュー 週499食

産後食 週130食、幼稚園食 週12,591食

### 週1度食卓を楽しくおいしく 宅配デリカ実験を進めています

ライフスタイルの変化から、購入して帰ってすぐ食べられる惣菜の需要が高まっています。宅配での新規事業への挑戦という意味合いもあり、'13年5月に函館エリア、7月に苫小牧エリア、11月に千歳エリアで宅配デリカの取扱いを開始しました。「週に一度は食事の準備で楽をしたい」という需要から、少しぜいたくなお弁当、ご飯のおかずといった商品が好調に売れています。来年度からはさらに、室蘭・旭川・釧路エリアなどへの展開を予定しています。



▶宅配デリカのメニュー例

**成果を見る**

**宅配デリカ**

利用者 累計約**45,000名**  
 (函館・苫小牧・千歳センター合計、  
 '13年5月1週～'14年2月3週)

### 出荷時間を短縮して野菜をより新鮮に 新農産セットセンターを稼働しました

'13年12月2日、宅配ドックでお届けする青果類を集める農産セットセンターを、江別の物流センター内に移転しました。物流センターとの間の輸送時間がなくなったほか、新しい農産セットセンター内では野菜のカット作業が可能となり、加工にかかる時間も短くなりました。生産地から届いた青果類を、より短い時間、新鮮な状態で組合員宅までお届けすることができるようになりました。



▲農産セットセンターでの加工の様子

### 安全な供給体制を確立し エゾシカ肉取扱い開始

道内にエゾシカは約59万頭が生息するといわれ、農林業・生態系への影響は大きな社会問題となっています。北海道ではエゾシカ問題の解決として、エゾシカ肉の利用拡大が進められていますが、野生動物のため、食肉としての安全性を確保することが課題でした。そこで北海道庁、特にエゾシカ対策課と意見交換を進め、安全性が確保されたエゾシカ肉の流通販売のしくみをつくり、'13年10月22日から販売を開始しました。

HACCP(食品安全を目的とした管理工程システム)認定工場「知床エゾシカファーム」から、北海道の策定した検査フローに基づき出荷された生肉を取扱っています。店内の加工も、ほかの肉の加工と交差させないことを徹底するほか、定期的な検査を行っています。エゾシカ肉の加工品は、原料のトレーサビリティが可能なもののみを販売します。

エゾシカ肉は道内6店舗で、販売をしています。エゾシカ肉がジビエ(フランス料理の、狩猟による鳥獣肉のこと)として、北海道の食文化の一つとなることを目指します。



▲エゾシカ肉の売場(ルーシー店)

#### Topics [事業活動トピックス]

### 日本トレーサビリティ協会と食品表示検定協会

安全・安心な食の基本は、正しい食品情報の提供にあります。コープさっぽろは原料生産から加工、流通まで食品の移動履歴をさかのぼれるトレーサビリティの確立を目指し、'07年にメーカーなどと協力し「日本トレーサビリティ協会」を立ち上げました。また、'09年には正しい食品表示を実現し消費者と事業者の信頼を結ぶため「食品表示検定協会」の設立に携わりました。

これまで日本トレーサビリティ協会は、食品表示内容の標準化や解析技術の高度化、関連情報の共有化を図り、食品表示検定協会の活動を設立時から協力・支援してきました。近年の食を取りまく状況から、トレーサビリティシステムの構築とさらなる制度確立が強く求められ、課題に迅速に対応するため、'13年12月1日に2協会は運営を統合しました。今後国際標準化に向けた活動と食品表示検定の普及を活発に行っていくことを目指します。



▲牛肉のトレーサビリティ情報画面



▲食品表示検定のテキスト



**エコセンターを拠点として  
事業や家庭の廃棄物減に取組む**

北海道ゼロ・エミ大賞で評価を受けた排出抑制の取組の中心には、エコセンターがあります。店舗や組合員の家庭から出る廃棄物の中から資源物となるものを集め、圧縮・減容処理をしてリサイクル工場へと送る施設で、'08年に建設しました。資源物は配送を終えたドックトラックの帰り便に積み、確実に回収するしくみを作るとともに、環境負荷の発生を抑えています。さらにそのドックトラックの一部は、組合員から回収した廃食油で作ったBDFで走らせています。'10年にはその導入台数は300台を超え、ギネス認定されました。



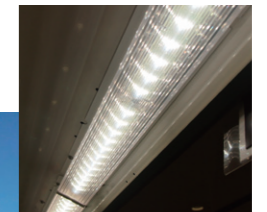
◀エコセンターは開放し、環境学習や見学にも役立てられています



▶'10年にはギネス認定を記念してパレード走行を行いました



また、商品にも生産・輸送で発生するCO<sub>2</sub>を「見える化」するため、「北海道100」(P7参照)の36品目にカーボンフットプリントを表示しました。現在さらに計算を進め、'14年度に100品目の店頭・商品表示、ホームページによる発信を目指しています。



▲冷蔵・生鮮ケースやスポット照明をLED化しました

◀建設中のECO・OP

**エネルギー問題から未来へ  
先進的な取組を事業の中で進める**

東日本大震災を経て、コープさっぽろはエネルギー問題へ取り組み始めました。将来に大きな負担を残す原子力発電をやめ、再生可能エネルギーに切り替えること、そしてエネルギーの地産地消を目指しています。

'12年12月には七飯町に実験用バイオガスプラント(P15参照)を建設しました。'13年3月からは、大規模ソーラー発電所を建設し、発電に参入しています(P15参照)。

今後は北海道との包括連携協定(P2参照)からも、環境に配慮した事業を進めていくことが期待されています。コープさっぽろの強みは、事業の中でパイロット的な取組をできること。小売業で最も先進的な循環型の事業モデルの実現を目指します。



▲メガソーラーの施設



◀バイオガスプラントの食品残渣を粉砕する装置

**森づくりから、森の活用へ  
環境の取組は広がっていく**

もう一つ廃棄物削減の取組に、'08年から開始したノレジ袋運動があります。それを発展させてレジ袋辞退分を基金として植樹や森づくりに利用する「コープ未来の森づくり基金」を始め、植樹活動を行っています(P15参照)。

森づくりを始めて学んだことは、森を守るには植樹だけでは不十分だということです。地域の森から生まれる材木を地域で消費し、また育てるといった循環が必要です。そこで、'10年に足寄産の間伐材を使って、国内初の木造大規模店舗「ECO・OP(イコープ)西宮の沢店」を建てました。

ECO・OPはコープさっぽろのエコの旗艦店と位置づけ、ソーラーパネルやガスコージェネレーションシステムなど、さまざまな技術により店舗から発生するCO<sub>2</sub>を減らしています。西宮の沢店での成果から、節電効果があるLED照明を全店舗に導入しました。さらに電力消費量の「見える化」とコントロールを進めるためにBEMS(エネルギー管理システム)を12店舗に導入しています。

**Special Story  
コープさっぽろの循環型事業モデル**

'13年度、コープさっぽろは2つの環境に関する賞を受賞しました。これまでの取組の評価された点を振り返り、環境負荷をかけない事業の形を考えます。

**環境に配慮した事業のしくみが  
道内外で評価を受ける**

コープさっぽろは、'08年度から循環型社会の実現を目指し、環境への取組をスタートしました。'13年度はこれまでの取組が評価され、2つの環境に関する賞を受賞しました。

一つは、廃棄物の発生・排出抑制の取組を行う団体を道が表彰する北海道ゼロ・エミ大賞で、11月12日に一般部門の優秀賞の表彰を受けました。もう一つは、グリーン購入の取組の質向上と普及・拡大を目指し、グリーン購入ネットワーク(GPN)が先進事例を表彰するグリーン購入大賞です。コープさっぽろは民間団体・学校部門で大賞を受賞し、12月13日に表彰を受けました。環境配慮を中心に置いて総合的な取組を進めていること、特に地域の資源を使って北海道で完結する取組、活動の継続性が評価されています。

▶北海道ゼロ・エミ大賞の授賞式は札幌駅前通地下歩行空間で行われました



▲東京ビッグサイトでのグリーン購入大賞授賞式の様子





## 環境にやさしい暮らしのあり方を 組合員と共に考えています

森づくり、再生エネルギー、リサイクルの促進など、  
事業を超えて、環境への負担を減らしたライフスタイルの形を組合員と共に考えて、実践を進めています。

### 北海道との連携企業が協力した 「北海道の森を元気にしよう!共同キャンペーン」

北海道との包括連携協定(P2参照)には、森林づくりの推進があります。同じく道と協定を結んでいるサッポロビール株式会社と、道を加えた3者の協働で、'13年11月5日から「北海道の森を元気にしよう!共同キャンペーン」を実施しました。



▲道庁赤レンガにて

サッポロビールの売れ筋商品「麦とホップ」に、1缶あたり1円分(66g-CO<sub>2</sub>)の二酸化炭素排出権を付与した「北海道の森に乾杯缶」を、コープさっぽろの店舗108店と宅配ドックで販売しました。集まったお金は、「キキタの森」間伐促進プロジェクトと上士幌町有林での間伐事業の費用にあてられ、合計で90t-CO<sub>2</sub>のカーボンオフセットを行いました。缶のラベルにはカーボンオフセットについての説明文を載せ、購入した方にキャンペーンの趣旨と森を元気にすることの大切さを知ってもらう機会としました。

**成果を見る**  
北海道の森を元気にしよう!共同キャンペーン  
販売総数 24缶入 55,700ケース  
カーボンオフセット量 90t-CO<sub>2</sub>  
排出権購入額 1,350,000円  
( '13年11月~12月)

### ホッキョクグマ応援の輪は旭川へ 全道4動物園と協働しています

'09年から道内の動物園と「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を立ち上げ、絶滅危惧種に指定されているホッキョクグマを応援し環境問題を考えてきました。'13年4月27日には新たに「旭山動物園」との協定を結び、「ほっきょくぐま館」前に環境メッセージを記した応援ボードを掲示し、園内4カ所にドックベンチを設置しました。

道内4動物園との連携を記念して、交流企画「夏休み4動物園ホッキョクグマ教室」を開催しました。飼育係によるホッキョクグマの説明、クイズやエコ工作教室を通して、親子で環境保護の大切さを考えてもらうための企画です。ほかにも、4動物園合計で1,000名のオリジナル入園チケットプレゼントを行い、動物園が子どもたちの環境意識を育む場となるよう応援しました。



▲旭山動物園での夏休みホッキョクグマ教室の様子

### 成果を見る 夏休みホッキョクグマ教室

場所	日程	参加人数
釧路市動物園	8月5日	20名
円山動物園	8月7日	40名
おびひろ動物園	8月11日	27名
旭山動物園	8月17日	34名

### 太陽光発電でCO<sub>2</sub>削減を目指す 「市民ソーラー」を稼働しています

コープさっぽろは、'13年3月21日から帯広市に「コープ・市民ソーラーとかち南町発電所」「コープ・市民ソーラーとかち川西発電所」の2カ所の大規模ソーラー発電所(メガソーラー)を設置しています(P13参照)。発電は順調に行われており、'13年度は発電した電力をPPS(特定規模電気事業者)に売るようにしくみを変え、コープさっぽろの事業所で利用できるようになりました。



◀コープ・市民ソーラーとかち

**成果を見る**  
メガソーラー事業('13年度)  
発電量 合計252万kWh

### 組合員と共に進める コープ未来の森づくり

「コープ未来(あした)の森づくり基金」により、「コープの森植樹祭」を全地区11カ所で開催しました。また、ぎょれんの「魚付林植樹」への協力など、道内他団体とも連携をして森づくりを進めています。



◀植樹祭の参加者と記念撮影

**成果を見る**  
コープの植樹活動('13年度)  
コープの森植樹祭 全道11地区11会場  
植樹面積2.28ha 参加人数995名 植樹数4,490本  
その他植樹数 ぎょれん魚付林植樹4,689本、その他39本  
合計植樹本数 9,218本

### 再生可能エネルギーの実用化を目指し バイオガスを試験稼働中

NEDOとの協働事業として、七飯町にバイオガスプラントを建設し、食品残渣、牛ふん尿、使用済み食用油からバイオガスを生成する実験稼働を行っています(P13参照)。バイオガスのメタン濃度による熱量の低さ、冬期間の発酵槽温度の低下によるガス発生量の減少など課題をクリアしながら、'13年度には57,118m<sup>3</sup>のバイオガスを生成することができました。これは131tのCO<sub>2</sub>排出の削減になります。また、231t分の生ごみの排出削減にもつながり、こちらは78tのCO<sub>2</sub>削減効果となります。



▲バイオガスプラントの機械室

### 事業や家庭から出るごみを資源に 「エコセンター」の集荷実績

店舗や組合員の家庭から出る廃棄物から資源物を集め、処理してリサイクル業者へ出荷する「エコセンター」を稼働しています。

### 成果を見る エコセンター集荷実績('13年度)

品目	回収量	前年比
ダンボール	16,120t	99%
牛乳パック	289t	94%
週刊ドック	8,262t	111%
新聞紙	976t	105%
発泡	416t	89%
ペットボトル	60t	98%
スチール缶	30t	91%
アルミ缶	44t	100%
結束用バンド	41t	113%
内袋	128t	150%
廃食油	719t	103%
合計	27,084t	103%



# 地域貢献



## Special Story いざという時の安心のために

安全・安心なくらしの実現のため、さまざまな取組を進めてきましたが、今年度は緊急のケース、つまり「救急」と「災害支援」について、新たな取組を行い体制を強化しました。



### 買物中の「万が一」に備え 全店にAEDを設置しました

コープさっぽろが北海道との包括連携協定（P2参照）を締結した背景の一つとして、高齢化が進む中で「安全・安心な地域づくり」への貢献が期待されていることがありました。宅配ドックや配食による見守り（P4参照）以外にも、'13年2月に「認知症サポーター」制度へ登録するなど店舗でも安全・安心への貢献に努めてきました。

さらに6月には、コープさっぽろの全108店舗に、自動体外式除細動器（AED）を設置しました。AEDは心臓発作を起こした人に電気ショックを与え応急処置をするための、一般市民にも扱える医療機器です。心停止から応急処置までの時間に救命率が左右されるため、従業員が緊急時に救命活動をできるよう、救急救命士を呼んで普通救命講習会も実施しました。この救命講習会には地域の組合員にも参加いただける機会も設けました。買物の間の万が一にもしっかり対応することで、コープさっぽろの見守り活動を広げ、地域に貢献したいと思っています。



▲全店設置の会見時に救命講習も実施しました



◀店舗に設置されたAED

### 災害時に、必要なところに 必要な物資を運ぶために

安全・安心に住める地域づくりについては、東日本大震災以降、災害への備えへの関心が高まりました。これまでコープさっぽろは、道および道内各市町村と災害時における救援物資の提供に関する協定を結んできました。しかし、東日本大震災の際、全国から集まった救援物資がスムーズに届かなかった事例を教訓に、江別市からコープさっぽろの物流の仕組みを生かし救援物資を滞りなく届けられるよう、新たな協定の要請を受けました。コープさっぽろは江別市内に物流センター、宅配ドックセンター、店舗、エコセンターなど数々の施設を有し、密接な関係を築いています。

そこで'13年7月3日、江別市と災害時における救援物資管理配送に関する相互協定を締結しました。災害発生後、全国から救援物資が市指定の集積所に集まった際、市と協力のもと、物資と仕分けと管理をコープさっぽろの関連会社北海道ロジサービスが行います。そして各避難所やドック利用世帯近辺への輸送を宅配ドックが担当します。



▶江別市との協定締結式を行いました

### コープさっぽろの災害時協定

災害時における応急生活物資供給等に関する基本協定（北海道と北海道生協連、コープさっぽろと北海道生協連）

行政 災害時における消費生活安定及び応急生活物資供給等に関する協定

24市町

消防 災害時における応援部隊に対する食料品等の供給の協力  
小樽市消防長、別海消防署長



## 自治体・地元企業・団体と協力しながら 安全・安心と元気を地域に広げています

さまざまな企業や団体と連携の輪を広げながら、誰もがくらしやすく、健康で元気な地域づくりに貢献しています。

### 遠方の家族に商品をお届けする 「見守りドック」を開始しました

「離れてくらす家族に、毎週コープの商品を届けてあげたい」「高齢者には、注文のしかたが難しい」という組合員からの声に応え、'13年10月28日から宅配ドックにおいて「見守りドック」のサービスを開始しました。

このサービスは宅配ドックで注文した商品の届け先を自宅以外にもでき、お届け先に異変があった時に注文者に電話連絡をします。さらに、ご希望の方には商品のお届け結果を毎週配達終了時に電話でご連絡することもできます。高齢のご両親や単身赴任のご主人、一人暮らしのお子さんなど、遠方の家族を見守る新たな可能性を持ったサービスです。

### サービス利用者の声

●息子宅に3人目の孫が生まれ、小さな子たちを抱えて買い物にも行けないというので申し込みました。箱単位のオムツや孫が好きな果物を、送料をかけずに送れて本当に助かります。（北見センター・女性）

### 見守りドックサービス内容



### 見守りドック（'13年10月28日～'14年3月3日）

登録者 244名  
電話連絡サービス実施 36名  
構成比 親へ…60.2%、子へ…30.3%、  
夫へ…4.5%、その他…4.9%

### 買い物しにくい地域へ駆けつける 「おまかせ便カケル」が拡大しています

人口減少で店舗が減り、買い物に容易に行けない「買い物難民」の問題を解消するために、'10年から移動販売車「おまかせ便カケル」の事業を開始しました。生鮮品、冷蔵・冷凍品を含め、常時1,000点以上の商品をトラックに積載し、決まったコースを週1～5回運行しています。

コープさっぽろは、過疎化・高齢化が進む中、より広いエリアで、より多くの方にご利用いただけるように、おまかせ便の運行台数を増やしています。'13年度は新たに13便を増便し、運行するトラックは65台になりました。空知、石狩、渡島、胆振、根室、北見、十勝エリアで新たな運行コースを設定し、運行区域を拡大しています。

おまかせ便カケル（'13年度）  
拠点店舗 43店舗  
運行エリア 120市町村



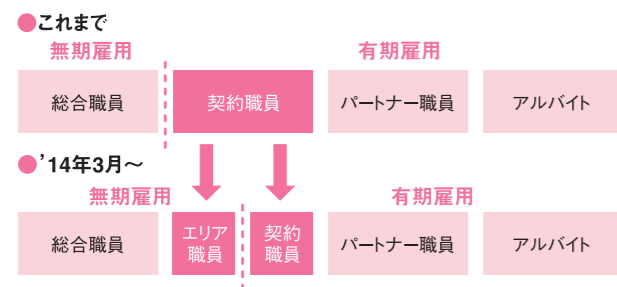
▲▲高齢者にも利用しやすいよう、トラックには大きな手すりや格納式のステップを設け、滑りにくい床材を使用しました





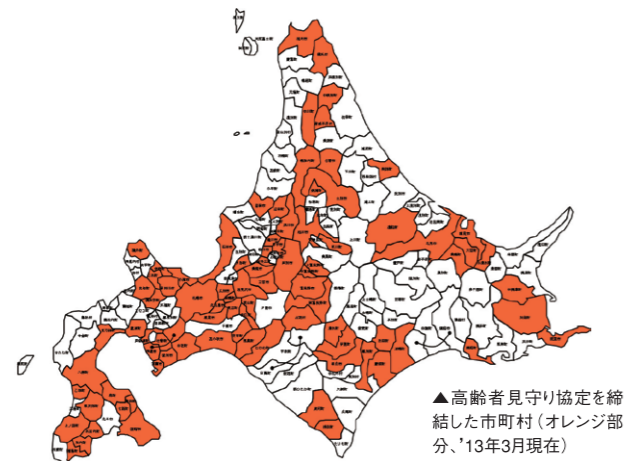
### 異動地域を限定した正規社員 「エリア職員」制度を新設しました

事業の成長には、優秀な職員の力が欠かせません。'14年3月に、それまで非正規(有期雇用)だった契約職員が、異動地域を限定した正規職員(無期雇用)として働ける「エリア職員」制度を新設しました。'14年度には、契約職員からの転換や高卒からの正規職員登用で、約1,000名のエリア職員採用を予定しています。



### 安全・安心なまちづくりのため 道内市町村と連携を進めています

コープさっぽろは'11年に札幌市とさっぽろまちづくりパートナー協定を締結し、さまざまな分野で協力しています。'13年度は安全・安心な地域づくりへの取組として、さっぽろ救急サポーター事業への参加や、救急車の適正な利用についての啓蒙に協力しました。また、道内各市町村とは高齢者見守り(P3)に関する「高齢者見守り協定」を結んでいます。



▲高齢者見守り協定を締結した市町村(オレンジ部分、'13年3月現在)

成果を見る  
高齢者見守り協定('13年度)  
90市町村

### 障がい者の就労に取組む 北海道はまなす食品を応援

北海道はまなす食品株式会社は、重度障がい者の雇用促進と知的障がい者の職業訓練など就労支援を行う企業として、道や自治体、銀行や民間企業が協力して設立されました。現在はコープさっぽろの連結子会社となり、店舗や宅配ドックで販売する納豆や菓子・珍味類を生産しています。'13年には納豆・珍味類の生産ラインを拡大しました。



▲北海道はまなす食品の製造風景

### 「地域まるごと元気アッププログラム」を 応援しています

産官学の協働で、高齢者の健康づくりを通して地域活性化を図る「地域まるごと元気アッププログラム(まる元)」を赤平市・余市町で実施しています。'13年にはまる元が発展し、コープさっぽろ俱知安店でも始めました。日ごろの健康上の悩みを健康運動指導士や看護師に相談でき、運動教室や体力測定会を通して健康の維持管理に励んでいます。



成果を見る  
地域まるごと元気アッププログラム('13年度)

	赤平市	余市町
運動教室	65名	68名
体力測定会	241名	215名

## 2013年度 活動報告 子育て 応援



## Special Story 子どもの健やかな成長を 支えるために

子どもたちを元気に、健康に育てたいという思いは、組合員の願いであるとともにコープさっぽろ全体の願いです。そのために必要な、安全・安心な食べ物を届ける取組を紹介します。



### アレルギーに悩む子どもを守る アレルゲン対応食品の取扱いを強化

食物アレルギーの子どもたちが増えており、社会問題となっています。しかしアレルゲン対応の商品は、一部量販店やインターネットでの販売に限られ、アレルギーを持つ子どもがいる家庭は食事の準備に苦勞する状況に置かれていました。

コープさっぽろではこれまでアレルギー表示の取組を進めていましたが、北海道にも都心部を中心に相当数のアレルギーを持つ子どもたちがいること、アレルギー対応商品についての組合員から高まる声を受け、'13年8月19日より45店舗にアレルギー配慮商品のコーナーを設けました。以前より取扱っていたハムやソーセージに加え、パンや米、調味料、菓子類など、約40品目のアレルゲン対応食品を揃え、一つのコーナーにわかりやすく陳列しています。



▶店舗に設置されたアレルギー配慮商品のコーナー

### 組合員の声

- アレルギーの子に向けた商品を置いていると新聞で知り、近くの店舗が対象でとてもうれしいです。もう少し離乳食が増えるともっとありがたいのでよろしくお願いします。
- アレルギー対応コーナーができて感激です。辻のお菓子が近所で買えるようになるなんて考えてもみませんでした。今、アレルギーで頑張っているママたちに宣伝しておきます。

### 子どもも、子育てをするお母さんも 共に健康になれるレシピ本を開発

商品の販売だけでなく、配食サービスにおいても、幼稚園給食にアレルギー対応食を用意するなど、子どもたちの健康を気づかった食をお届けしています。

さらに'13年3月には、新たに子育てを始めるお母さんたちに向けて、「産後のからだにうれしいごはん」として産後食の配食を開始しました(P10参照)。社団法人北海道助産師会、合同会社のこたべと協力し、母乳育児も視野に入れ、産後の女性の健康を考えたメニューを助産師・栄養士と共に開発しました。

その中で、産後食の配食エリア外の組合員から、レシピや関連情報の提供を望む声が寄せられました。そこで前述2団体と、北海道保健福祉部と協働し、産後食のレシピ本「産後のカラダにうれしい本」を制作し、販売したほか道内の産婦人科病院に無料提供を行いました。さらに'13年12月13日には北海道へ贈呈し、子育て支援センターなどに配置されています。



▲「産後のカラダにうれしい本」と開発したメニューの一例

### 組合員の声

- 長男が「この野菜は体のどこに効くの?」と聞いてくるので、写真の横にこれは何に効くという情報があるのがわかりやすくてありがたかったです。
- 子どもが低身長なので、これで少しでもバランスよく、体に良いものを摂取できると、親として励みになりました。
- 病院で手にとって、子育ての悩みなど共感できることがたくさん書いてあり、励みになりました。料理はどれもおいしそうで参考になります。



## 未来を担う子どもたちの 健やかな成長を応援しています

これからの北海道を担うのは、たくさんの可能性を持った子どもたちです。  
子どもたちの未来を広げるため、さまざまなイベントや子育て家庭のサポートを行っています。

### 「えほんがトック」の輪を広げ 道内の図書館に絵本を寄贈しました

1～2歳のお子さんのいる組合員のご家庭に絵本を無償でお届けする「えほんがトック」。活動は今年で4年目となり、これまでに10万冊超の絵本をお届けしてきました。また、保育園や幼稚園で絵本の読み聞かせを行う「よみきかせキャラバン」も'12年から続けています。

'13年は北海道との包括連携協定（P2参照）の締結により、道内179市町村の図書館にも「えほんがトック」の絵本を寄贈することとなりました。2年間で6種類の絵本を各図書館に1冊ずつ、合計1,200冊を贈ります。今年度の配本の1冊目として、「でんしゃにのって」（とよたかずひこ作・絵 アリス館）を、8月31日に北海道立図書館に一括して贈呈しました。絵本を通して、家庭での親子のふれあい、大切にしたい価値観の継承が一層増えることを期待しています。



▲北海道立図書館での贈呈式

**えほんがトック**

成果を見る

'13年度 14,218世帯 **37,499冊**  
よみきかせキャラバン 50カ所 **参加者数4,573名**

者や取引先企業・団体、農協、漁協、学校、行政などが出展して、消費者である組合員と交流する場となりました。例年よりも「体験企画」が増えたことで、家族連れの来場者が増加しました。「食」はもちろん「くらし」「環境」について、子どもたちを中心に楽しい体験を通して多くのことを学べる1日となりました。

**食べる・たいせつフェスティバル（'13年度）**

成果を見る

開催日	開催地区	会場	来場者数
8月31日	札幌	札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドームつどーむ	9,310名
9月28日	苫小牧	苫小牧市民会館	1,758名
10月13日	帯広	十勝農協家畜共進会場 アグリアリーナ	2,235名
10月19日	函館	函館総合センター流通ホール	1,624名
10月27日	釧路	釧路市観光国際交流センター	1,937名
11月 2日	北見	サンドーム北見・サンライフ北見	2,129名
11月10日	旭川	旭川地場産業振興センター	3,647名
合計			22,640名



▲つどーむ会場での開催の様子

### 仕事体験で将来の夢を広げる 「おしごとキッズ」を開催しています

コープさっぽろの店舗や生産現場などで、実際の仕事を体験しながら流通や食について学ぶ「おしごとキッズ」を年2回開催しています。夏季は収穫・出荷体験を実施し、冬季には新たに店舗内で各部門の職員から食材の知識を学ぶ「食材学習会」を実施しました。子どもたちの仕事や食べ物への関心を高められたと、参加した子どもの親から好評を博しています。



▲デリカ寿司作りを体験する子どもたち

**おしごとキッズ（'13年度）**

成果を見る

	開催店舗	参加者
夏	11店舗	233名
冬	10店舗	168名

### 子育て家庭の家計をサポートする さまざまな割引制度を用意しています

コープさっぽろでは、家計負担がかさむ子育て世帯をサポートするためにさまざまな割引制度を設けています。店舗では毎週火曜日、小学6年生までのお子さんを持つご家庭を対象に、会計から5%割引する「ちびっこコープデー」を実施しています。また、宅配トックではシステム手数料を半額にする「子育てサポート」制度を設けています。



**子育てサポート（'13年度）**

成果を見る

登録者数 **45,109名**（前年比158%）

### 2歳児を対象にした一時保育 「こぐまさんるーむ」を開始

冠婚葬祭や通院、お買物などの間、一時的にお子さんを預かる施設「トックルーム」を'10年から開始しています。'13年4月から、一時保育「こぐまさんるーむ」を開始し、毎週水曜に2歳のお子さん8名をお預かりしています。プログラムには、野菜の名前を覚えたり、お店に実際にお買物に出かけたりと食育も取り入れています。



▲「こぐまさんるーむ」のお買物体験

**一時保育トックルーム（'13年度）**

成果を見る

利用者数 **724名**

### くらしのさまざまな場面で役立つ コープさっぽろの子育て応援プログラム

これまで紹介した取組を含め、コープさっぽろはお子さんとお子さんを育てるためのさまざまなプログラムを、子育て支援基金のもと整備しています。子育て中の組合員が親子連れで集える場になる「子育てひろば」や「ふれあいサロン」、親子で参加できるイベントや産地交流体験、育英奨学金など、子どもが成長する過程のさまざまな場面で役立つプログラムを、組合員の声を反映しながら実施しています。



▶子育てひろばの様子



## 地域へ、国内へ、世界へ、 助け合いの心による活動を届けています

組合員の善意や協力によるさまざまな活動が、  
現在困難に遭っている人たちの問題を解決するための、大きな力となっています。

### 札幌の玄関口でアイヌ文化の紹介へ 「イランカラブテ」キャンペーンに協力

アイヌ語の挨拶「イランカラブテ（こんにちは）」を北海道のおもてなしのキーワードとして普及させるキャンペーンが、国や道の主導で'13年度から行われています。自然共生のアイヌ文化は循環型社会の実現を目指すコープさっぽろの理念に沿うため、民間企業サポーターとして参加しました。

そこで同サポーター企業であるイオン北海道株式会社、マックスバリュ北海道と共同し、一般社団法人札幌大学ウレシバクラブが取り組むアイヌアートモニュメント設置への支援募金を行いました。完成したモニュメントは'14年2月2日に設置され、以後札幌を訪れる観光客にアイヌ文化を伝えています。



▲設置セレモニーではアイヌ文化を学ぶ学生たちが伝統儀式を行いました



#### 「イランカラブテ」支援募金

募金額 1,139,349円  
(\*14年1月1日～2月9日)

### 福島の子どもたちを招待し 大自然の中で遊ぶ夏休みをプレゼント

原発事故による放射能の影響で、十分に外で遊ぶことができない福島の子どもたちを招く「北海道に遊びに行こう! 夏休み大自然北海道ツアー」を昨年に引き続き開催しました。組合員の皆さんの支援募金で、50名の子どもたちを招きました。

今年のツアーは組合員が中心となって企画し、ソーセージ作りやお米の生産現場などを体験する「鹿追・東川コース」、農産物の収穫体験やウィンタースポーツ体験などを行う「キロロ・札幌コース」の2コースを用意しました。道内地域団体などの協力を得ながら、大自然でいっぱい遊び、楽しく学びながら心身をリフレッシュできるプログラムとしました。



▶到着した子どもたち



▲スキージャンプ台を間近に見学



#### 福島の子ども 北海道へ遊びに行こう! 夏休み大自然北海道ツアー

支援募金額 7,885,561円

鹿追・東川コース (\*13年7月24日～28日) 参加者25名  
キロロ・札幌コース (\*13年7月26日～30日) 参加者25名  
合計 50名

### ブータンの学校に安全な水とトイレを 「ブータン水と衛生プロジェクト」を実施

ブータンの子どもたちに安全な水と衛生的なトイレを贈るためのユニセフ指定募金「ブータン水と衛生プロジェクト」は4年目を迎え、今年度から第二期として新たな3カ年が始まりました。3年



▶コープ担当者子どもたち

### 台風災害に見舞われたフィリピンの 緊急支援のため募金を行いました

'13年11月にフィリピンを襲った台風30号は甚大な被害を同国にもたらし、多数の被災者が発生しました。そこでコープさっぽろは、12月1日～31日に緊急募金を行いました。多くの組合



#### フィリピン台風被害緊急募金

募金額 13,356,259円  
(\*13年12月1日～31日)

で321,000米ドルを集め、10校に給水・衛生施設を設置し、管理や衛生習慣の研修の実施をすることを目標に募金活動を進めています。



#### ブータン水と衛生プロジェクト (\*13年度)

店舗	2,309,984円
宅配	4,736,500円
本部	5,914,584円
<b>合計</b>	<b>12,961,068円</b>

員にご参加いただき、お寄せいただいた募金はユニセフを通じ、台風被害の緊急支援活動に活用されました。



#### Topics [事業活動トピックス]

### さまざまな場面で組合員が助け合い、共に活動しています

コープさっぽろは組合員同士の新たな結びつきや、困ったことを助け合うコミュニティづくりにも力を入れています。

#### ●コープ会

組合員5名以上が集まって、関心があることに自由に取組むことができる会です。商品試食や産地工場見学、環境や平和についての学習会などさまざまな活動が行われています。

#### ●コープくらし助け合いの会

家事や子育ての支援、通院や外出の介助など、普段のくらしで困っていることを組合員同士で助け合う有償のボランティア団体です。道内7カ所に事務局を置き、援助会員・利用会員・賛助会員が参加しています。



▶▶コープくらし助け合いの会による車いす体験会





## 子どもからお年寄りまで、 みんなで楽しめる場をつくっています

スポーツや芸術文化、食育や料理教室、旅行…

子どもからお年寄りまで、みんなが参加でき、日々の暮らしを豊かに彩るさまざまな講座やイベントを実施しています。

### 趣味の教室から料理教室、文化にふれるイベントまで 幅広い興味に応える「コープさっぽろ文化教室」

伝統文化の講座から、音楽・舞踊、健康づくりの講座まで、組合員の興味を深める幅広い講座を用意した「コープさっぽろ文化教室」を開講しています。店舗併設の教室で広い駐車場を備え、子ども対象の講座もあり、お買物がてらに通えます。講座の開設・運営は組合員の要望を取り入れ、入会金なし・月単位の受講料と、特徴的で利用しやすいカルチャーセンターとなっています。

#### 成果を見る コープさっぽろ文化教室（'13年度）

- 教室…15教室  
中央教室、札幌地区（ルーシー、ソシア、平岡、新はっさむ、新道）、石狩地区（いしかり）、岩見沢地区（岩見沢南）、旭川地区（シーナ、東光、神楽）、函館地区（山の手、いしかわ）、北見地区（きたみ春光）、帯広地区（ベルデ）
- 講座数…1,335講座 ●受講生数…8,180名

#### キッチンスタジオ

ソシア店、ベルデ店、いしかわ店の3カ所にはキッチンスタジオを併設しています。料理教室や食イベントを開催しているほか、レンタルキッチンとして各種料理教室や講座、料理撮影やメニュー開発などにご利用いただくこともできます。

コープさっぽろ開催の取組として、生産者交流会や食材活用・試食などの講習会を行う食育事業「コープで健食!プログラム」、水産部とコラボし、子どもたちに魚料理に親しんでもらうための親子向け料理教室、日生協コープ商品の活用術の講座など、特徴的なプログラムも実施しました。



▲ベルデ「親子で押寿司づくり」の様子

#### 成果を見る コープで健食!プログラムイベント 「農林水産省の平成25年度食材提供の場を 活用した食育実践活動事業」

生産者交流会 合計12回 参加者189名  
各種講習会 合計60回 参加者527名

#### 文化鑑賞会

会員制で、年間約3回の生の舞台に触れていただく文化鑑賞会を実施しています。会員は1,600名を数え、その運営は会員の手により行われています。お芝居や音楽コンサート、伝統芸能など、会員の要望により運営委員会で話し合い、さまざまなジャンルのプログラム企画を行っています。



▲デューク・エリントン・オーケストラ ▲南こうせつ氏

#### 成果を見る コープ文化鑑賞会（'13年度）

開催日	公演名（会場）	参加者数
'13年 5月	南こうせつコンサート （札幌市教育文化会館）	1,815名
'13年 9月	宝塚歌劇 雪組 北海道公演 （ニトリ文化ホール）	1,751名
'13年11月	デューク・エリントン・オーケストラ （札幌市民ホール）	1,568名

### 絵本をテーマに家族の絆を描く 映画「じんじん」を応援しました

'13年5月18日、映画「じんじん」が北海道先行公開されました。この映画は、絵本の里と呼ばれ、20年前から絵本を題材にまちづくりを進めてきた剣淵町をメインの舞台としており、そのストーリーも絵本をキーに家族の絆を描くものです。子どもたちの成長を「えほんがトドック」（P20参照）で応援するコープさっぽろは、「映画『じんじん』製作と上映を応援する」会に参加しました。子育て中のママに映画をゆっくり見てもらうため、絵本の読み聞かせのついた託児をセットにした映画チケットを販売し

たほか、コープトラベルによる剣淵町ツアーの企画協力など、さまざまな場面で映画の上映を盛り上げました。

じんじん



©2013映画「じんじん」製作委員会

### 関係各社と協力のもと さまざまなイベントを実施しています

年間44イベントで合計11,124名が参加しました。

#### ■スポーツイベント 9企画 参加者9,470名

名称	参加者数
第6回 江崎グリコ・グリコ乳業 中村真衣のキッズ水泳教室	85名
第27回マルちゃん杯北海道少年柔道大会	1,075名
ネスレ ミロ招待 第25回コープさっぽろ杯サッカー少年団大会	597名
第40回 コープさっぽろ杯日刊スポーツ旗争奪少年野球秋季大会	3,300名
日刊スポーツ少年野球大会・白井さんの野球教室	100名
第29回コープさっぽろ・S&B杯ちびっ子健康マラソン大会	1,767名
日本ハムグループ 札幌ドームvs東北楽天イーグルス戦ご招待	880名
日清オイリオ ジュニアサッカースクール	194名
HBCラジオ・ハウス食品歩くスキー大会	1,472名

#### ■バスツアーイベント 10企画 参加者681名

名称	参加者数
大塚製薬 大豆遠足（旭川・札幌コース）	67名
カルビー・岩塚製菓 第10回夏休み絵日記の旅	63名
日清食品 夏の冒険王	30名
明治 明治十勝工場見学&牧場搾乳体験ツアー	38名
王子ネピア「親子でオリジナルティッシュづくり&工場見学バスツアー」	30名
ライオン STVラジオ「コープさっぽろ自然体験教室 in ハイジ牧場」	91名
キリンビバレッジ 親子で一緒に学んで体験しよう「農園体験ツアー」	30名
森永グループ 第11回 キョロちゃんとお遊ぼう!くだもの狩りツアー	300名
東洋水産「マルちゃん 新・北海道工場 親子見学」	32名



#### ■料理教室イベント 7企画 参加者236名

名称	参加者数
日本食糧新聞社 ふれあいクッキング秋田料理長の料理教室（旭川）	24名
日本食糧新聞社 ふれあいクッキング 稲田シェフの料理教室（札幌）	69名
ハウス食品 夏休み親子クッキングスクール	29名
宝酒造「お酒のチカラ実感クッキング」	39名
ニチレイフーズ 親子でアレンジクッキング	37名
日本食糧新聞社 ふれあいクッキング稲田シェフの料理教室（旭川）	38名

#### ■食育・健康・その他イベント 18企画 参加者737名

名称	参加者数
ニチレイフーズ コロケができるまで体験!キッズツアー	30名
福山醸造 第6回親子手作り味噌教室	42名
ハウス食品 第2回「私の夏カレーレシピコンテスト」決勝大会	4名
雪印メグミルクフェア「アウトドア体験BBQ教室」	38名
大塚製薬 家族みんなで健康セミナー	89名
ロッテ 手作りガム教室	38名
コカ・コーラ 夏休み!思い出づくりプレゼント!	23名
森永製菓 手作りハイチュウ教室	30名
畑でレストランXなるほど商品試食会	40名
雪印メグミルクフェア「円山動物園パークヤードツアー」	39名
オタフクソース お好み焼・焼そば「風月」で「作って食べて学ぼう」	24名
田辺由美先生と一緒に道産ワイン新酒を祝う会	91名
明治 手作りケーキ教室	34名
HBCラジオ初売もちつき大会	100名
ハウス食品「我が家のシチュエーションレシピコンテスト」決勝大会	5名
明治 手作りチョコ教室	40名
沖縄フェア 第8回「諸見里さんの手作りシーサー教室」	40名
日清フーズトラットリア/ピッツェリア・テルツィーナ ランチご招待	30名



# コープさっぽろ 2013年度環境報告

コープさっぽろでは'08年度に「エコプロジェクト21」を実行し環境の保全・改善に大きな成果を上げました。以降毎年アクションプランに沿って環境配慮活動を進めてきました。'13年度は18のアクションプラン課題を掲げました。ここでは、その取組の結果をまとめ、ご報告いたします。



環境活動テーマ	アクションプラン	評価	評価の根拠
組合員と共に進める環境の取組	コープ未来(あした)の森づくり基金のもと1万本の植樹活動を進めます。	☔	'13年度は全道11カ所の「コープの森」で植樹祭を開催、995名が参加。基金での植樹総本数は9,218本、あすもりサポーター登録者数は721名(前年573名)と目標は未達成でしたが、前年比125%増の参加になりました。
	家庭での省エネを促進する取組を進めます。	☔	スマートメーターは一般家庭350世帯(目標1,000世帯)に設置、太陽光パネルは300軒を超す(目標265軒)設置となりました。
	カーボンフットプリントによる二酸化炭素の見える化を推進します。	☀	コープさっぽろは独自のカーボンフットプリントの見える化を「北海道100」商品を通じて行ってきましたが、さらなる周知をはかるため、見える化の対象を「なるほどコープ商品」「石狩工場商品」へと拡大、現在約100品の計算を終了させています。
	ご近所やさい、地産地消の取組を拡大します。	☀	ご近所やさい13億円(前年11億円)、ぶこつ野菜1.2億円(前年1億円)で供給構成比は9.1%となりました(農業賞対象商品は正確な計算が難しいため除外しました)。ご近所やさいの地区別交流会は函館地区で開催しました。
	地域に根ざした地産地消拡大と食育プログラムを推進します。	☀	取引先・農業賞受賞生産者・大学関係者・行政などと共に「食育研究会」を立ち上げ、新たな価値創造を目指す食育教育のあり方について経験交流を行い、有機農業をはじめとする循環型農業の理解を広げるために、「食べる・たいせつフェスティバル」を通して生産者交流や商品学習を行いました。
	脱原発を推進する自然エネルギーの活用拡大を推進します。	☀	メガソーラーは、年間252万kWhと予定以上の発電量となり、CO <sub>2</sub> 排出量に置き換えると1,713tの削減。NEDOとの共同実験である函館七飯地区のバイオガスプラントは57,118m <sup>3</sup> のバイオガスを精製し、これは131tのCO <sub>2</sub> 排出量の削減になるほか、生ごみ処分量が231t削減され、さらに78tのCO <sub>2</sub> 排出量が削減されました。
廃棄物の削減とリサイクルによる循環型地域社会形成のための取組	エコセンターへの資源回収品目の拡大と5%回収量アップを目指します。	☀	エコセンター全体の回収量は27,084t(前年比103%)になり、ダンボールや週刊ドックの回収が増え、'13年4月から機密文書の処理を自前化し、毎月8tを処理しています。
	新規回収リサイクルの検討を進めます。	☀	ペットボトルの自前回収量は1店舗1日あたり約556本、33人の組合員に利用されており、資源回収量の拡大につながるほか、店舗への来店動機にもなる取組であることがわかりました。
	BDF活用の範囲を広げる検討を行います。	☁	BDFカーボンオフセットの活用については見送りましたが、新たにサッポロビール株式会社と北海道の共同プロジェクト「北海道の森を元気にしよう!」キャンペーンを実施し、北海道の森の排出権を購入する組合員参加型のカーボンオフセットの取組を実施。混合燃料の実験は、帯広営業所で暖房に10%混合の燃料を活用する実験を行いました。

環境活動テーマ	アクションプラン	評価	評価の根拠
廃棄物の削減とリサイクルによる循環型地域社会形成のための取組	店舗で発生する食品残渣(生ごみ)を使ったリサイクルループを実現させます。	☀	バイオガスプラントへの食品残渣供給を継続しており、函館市の9店舗から出た野菜くずや惣菜、パンなどを再生可能エネルギーとして再利用。このことにより店舗では241m <sup>3</sup> の一般廃棄物処理量が削減され、処理費用としても年間100万円の削減に繋がりました。
	木質ペレット活用での地産地消型社会の実現を目指します。	☀	'13年3月に設置、稼働したルーシー店のブルボイラーは、月30~40tのペレットを使用しています。この実験により、これまで使用していた重油の使用量は昨年の35%の推移となりました。
	新容器リサイクル法に対応し容器包装の大幅削減を進めます。	☔	容器包装の使用量は目標に対して大幅未達成でしたが、環境方針で目標を作成した'09年からは削減ができており、売上との対比では89%まで使用量が減少。'12年度PB商品として「大雪旭岳大自然がろ過した天然水」の発売を行ったことから容器包装の使用量が増加しましたが、ペットボトルの回収実績があるため排出量の増加分を吸収することができました。
事業分野での改善活動による環境負荷削減の取組	ISO14001返上に伴う独自の環境マネジメントの確立を行います。	☀	新人職員の全体教育の場で学習を行ったほか、旭川地区でコープさっぽろの環境に対する取組についての内部職員学習会を開催。これまでわかりづかった各事業所での電気使用量削減量や生ごみの発生量、エコセンターでの回収量について、グラフ化したわかりやすいフォームでの見える化を行いました。
	環境配慮全商品の取扱いをさらに強めていきます。	☀	黄金そだちシリーズは別海ソフトクリームの発売などで24SKUとなり、供給は6.8億円(2月実績)と'12年対比111%と伸長。環境に配慮した認証商品として、コープフェアトレード炭火珈琲を取扱い、715万円('14年2月まで)の売上実績となっています。
	電気使用量のさらなる削減(既存店比5%削減目標)のため、それにかかる費用効果を検討しつつ実施します。	☀	スマートメーター(BEMS)を活用した自動制御のしくみづくりに向けて、12店舗に設置し実験。この実験から空調の運転状態を明らかにし、冷設機器の運転をコントロールすることでエネルギーを抑えられることがわかりました。
	エコ店舗の成果を他店へ拡大しCO <sub>2</sub> 排出のさらなる削減を目指します。	☀	エコ店舗で成果のあった機器・機材の他店展開として、6店舗で天井照明のLED化を実施。函館バイオガスプラントのコージェネ実験では、プラントで精製したガスを北海道ガスにて運搬し燃焼試験などを行いました。1日40~50m <sup>3</sup> の運搬を行い、試験結果から精製ガスのメタン濃度が98~99%であり、利用する上で問題のない水準であることがわかりました。
	物流の効率化によるコスト削減と環境負荷削減を進めます。	☀	物流子会社北海道ロジサービスでは、宅配低温センターのマテリアルハンドリング変更で積載率を向上させたほか、生鮮・日配物流の統合運行を行うなど車両運行体制を見直し。江別物流センターでは、照明のLED化や節電活動を活発化させ、'14年2月までに6万kWhの節電を行い、412tの二酸化炭素排出量の削減になりました。
	紙の使用量をさらに3%削減します。	☔	'12年度に店舗のプリンターを削減し複合機での印刷に変更したためコピー枚数は113%に増加しましたが、プリンターインクの購入金額は'12年度比で62%まで減少し、800万円を削減。また、Nアップ印刷の利用が増加し比率は0.8%になりました。

# コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろは、組合員149万人を擁する全道に広がる組織です。その組織率からしても地域社会の期待は非常に高いものがあります。今後よりいっそう経営の健全性を高めるとともに、地域に広がる組合員活動の充実に努め、北海道の元気につながる「社会的役割」を発揮するコープさっぽろを目指します。

## コープさっぽろの基本姿勢

### 組合員への「7つのお約束」と社会的責任

- お約束 1** ▶ つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かな暮らし」をお約束します。
- お約束 2** ▶ いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。
- お約束 3** ▶ 組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することのお手伝いをお約束します。
- お約束 4** ▶ 誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。
- お約束 5** ▶ 道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。
- お約束 6** ▶ 地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。
- お約束 7** ▶ 平和で、人間らしい「豊かな暮らし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

## コープさっぽろの環境理念と環境方針

<b>環境理念</b>	<p>コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。</p> <p>コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。</p>
<b>環境方針</b>	<p>コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じ組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。</p> <p>①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。</li> <li>●廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。</li> <li>●環境に配慮した事務用品の使用に努めます。</li> <li>●環境に配慮した商品の開発と普及に取り組めます。</li> <li>●業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。</li> <li>●組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。</li> <li>●環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。</li> </ul> <p>②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。</p> <p>③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。</p> <p>④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。</p>

## 沿革

1965	7月18日創立総会 10月1日創業開始 名称:札幌市民生活協同組合 店舗数2 組合員数1,000人 初年度事業高2億5,600万円	2010	BDF使用トラックギネス登録パレード ECO・OP西宮の沢店オープン
1969	小樽市民生協と統合	2011	「黄金そだちシリーズ」の卵、別海牛乳、美瑛豚販売スタート 札幌市と高齢者見守り協定締結 東日本大震災救援物資、支援スタート くらしの広場スタート 配食サービススタート スマートメーター実験スタート フィンランド生協連合会役員来札 札幌市とまちづくりパートナーシップ協定締結 釧路市動物園と協定
1970	旭川市民生協と統合	2012	全労済、北海道医療生協、ほくろう福祉協会と事業提携 「Cho-co-tto」(ちょこっと)リニューアル 別海乳業興社事業提携 JAみねのぶ店舗オープン 事業所内託児所オープン 畑でレストラン開催 道内52市町村と高齢者見守り協定締結 フリエ 家族葬スタート PB商品発売開始 クッキングスタジオスタート 食育研究会スタート
1973	商品検査室設置	2013	大雪水資源保全センター事業開始 北海道と包括協定締結 配食サービスで産後食スタート バイオガスプラント・メガソーラー稼働 野口観光株式会社と事業連携協定 旭山動物園と協定締結 エゾシカ肉販売開始 全店にAED設置 藤野店に道の駅風「ご近所やさい藤野農園」開設 江別市と災害時配送協定締結 新POSレジを自前化で導入 アレルゲン商品コーナー化 見守りドック開始
1975	北海道知事より優良組合の表彰を受ける	2014	高齢者見守り協定90市町村と締結 再生エネルギー購入 契約社員1,000人の正規登用発表 魚の調理教室開始
1977	CO・OP共済(火災、生命)扱いスタート		
1978	中央市民生協、函館市民生協と統合		
1979	真駒内団地生協と統合		
1981	協同購入事業月例配達 店舗遠隔地でスタート		
1990	生活協同組合市民生協コープさっぽろへ名称変更		
1995	創立30周年 店舗数116 組合員数782千人 事業高1,756億円		
1997	「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート 協同購入事業での戸配事業スタート		
2000	生活協同組合コープさっぽろへ名称変更 全国の生協とともに進めた「食品衛生法改正を求める国会請願」の署名にコープさっぽろ34万筆を提出		
2002	道央市民生協との事業提携 「生鮮食品表示自主基準」運用		
2003	釧路市民生協との統合、宗谷市民生協との事業提携 全国初、消費者が生産者におくる「コープさっぽろ農業賞」スタート 北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けて要望書提出		
2004	「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用		
2005	宗谷市民生協との統合、コープ十勝・コープどうとうとの事業提携		
2006	道央市民生協・コープどうとうとの統合 根室支庁に2店舗初出店 協同購入・戸配事業の名称をコープ宅配システムドックへ名称変更		
2007	コープ十勝との統合		
2008	コープさっぽろ寄附講座開催(北海学園大学経済学部/酪農学園大学酪農学部 食品流通学科) レジ袋有料化スタート エコセンター始動		
2009	志賀総合食料品店、別海農協、(有)魚長との提携 旭友ストアからの事業継承 札幌市円山動物園と提携、ホッキョクグマ応援プロジェクト開始 社会福祉基金が公益財団法人認可		
2010	カーボンフットプリント表示商品スタート 一時保育ドックルームスタート(ルーシー店) えほんがドックスタート おびひろ動物園と協定 移動販売車スタート		



開業第1号店の大学村店(札幌市)



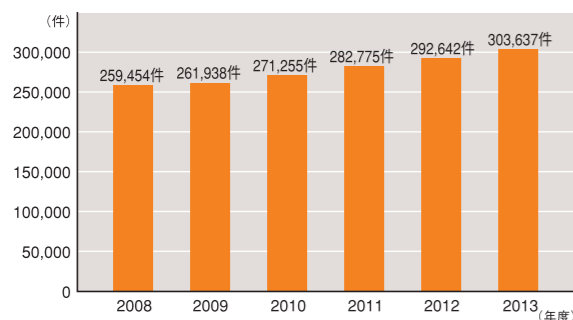
「おいしいお店」第1号店の新道店(札幌市)



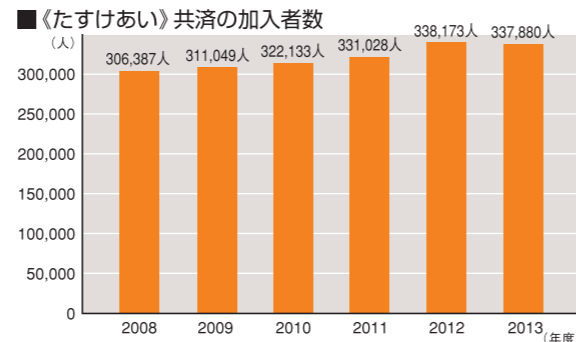
基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立	1965年(昭和40年) 7月18日 創立総会 10月1日 創業開始
本部	札幌市西区寒寒11条5丁目10番1号
役員(常勤)	●理事長 大見 英明 ●専務理事 山口 敏文 ●常務理事 福田 信 ●常務理事 中島 則裕 (2014年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)
組合員数	1,490,640名(2014年3月20日) (北海道の世帯数2,692,051世帯)(2013年3月31日) 組合員組織率55.4% (札幌市48.1%、旭川市66.1%、函館市63.4%、石狩市74.2%など)
出資金	629億1,756万円(2014年3月20日現在)
事業高	2,626億4,489万円(2013年3月21日~2014年3月20日) 1,796億5,077万円(店舗事業) 768億5,824万円(宅配事業) 15億5,439万円(共済事業) 45億8,150万円(その他)
従業者数	正規職員 1,307名 契約社員 1,367名 パート・アルバイト 10,270名 (2014年3月20日現在)

資料 宅配(トドック)の参加情報



資料 CO・OP共済の状況



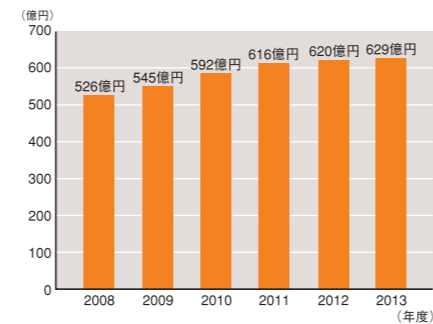
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

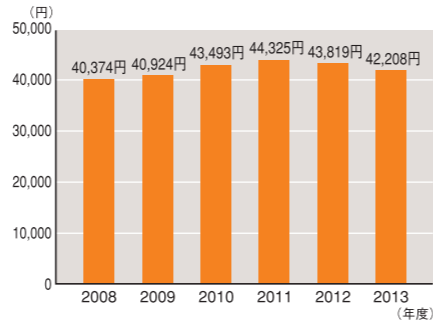
項目 年度	金額 (千円)	前年比増加額 (千円)	増加率(%)	
			対前 年比	2008年度 基準
2008	52,641,212	▲4,710,702	92	100
2009	54,504,525	1,863,313	104	104
2010	59,244,286	4,739,761	109	113
2011	61,680,589	2,436,303	104	117
2012	62,015,189	334,600	101	118
2013	62,917,555	910,738	102	120

※2008年度4月の定款変更で1組合員の有することができる出資口数の限度が五千口(500万円)となり、出資金の減少となりました。

■年度別出資金残金

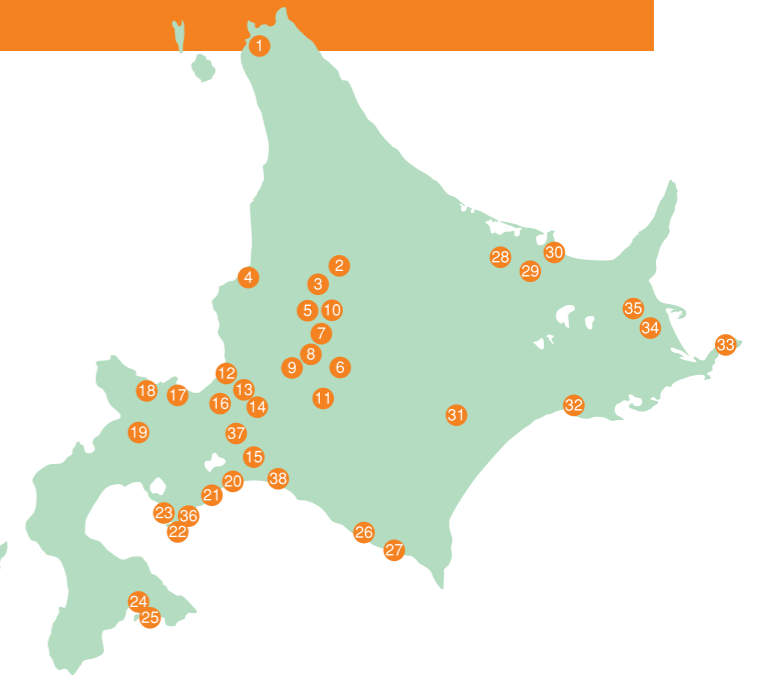
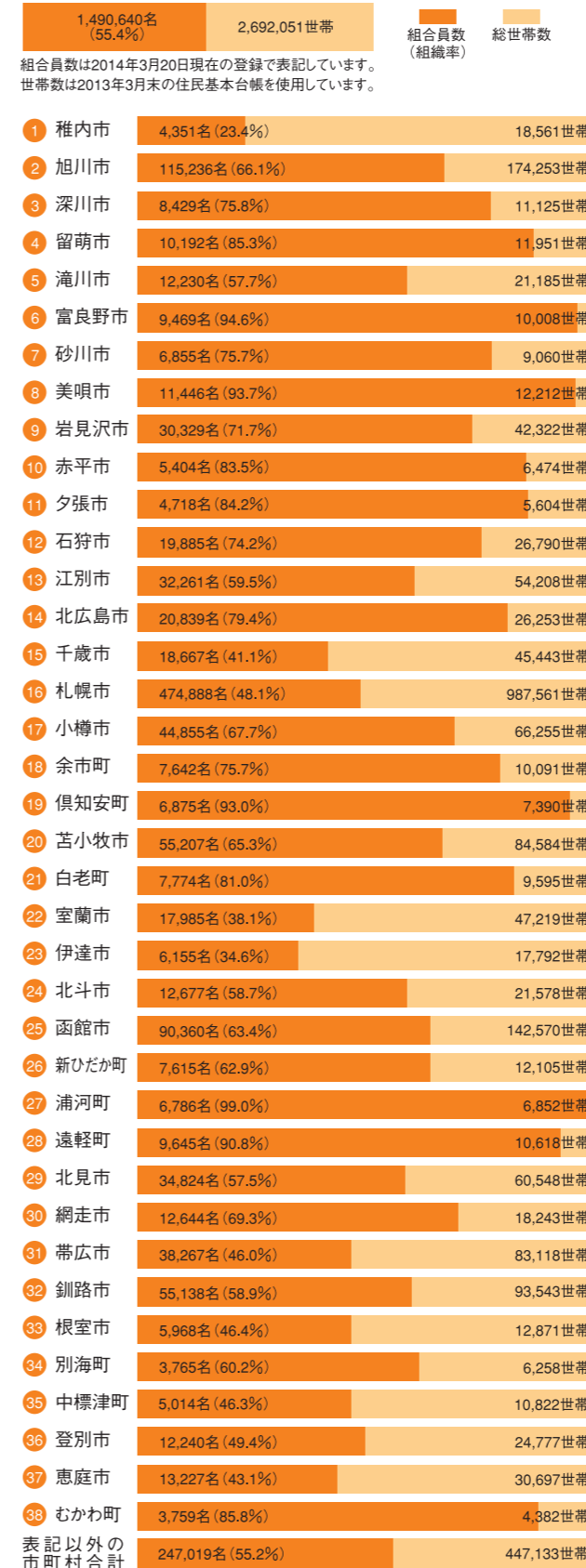


■1人当たりの平均出資金



組合員動態

都市別組合員組織率

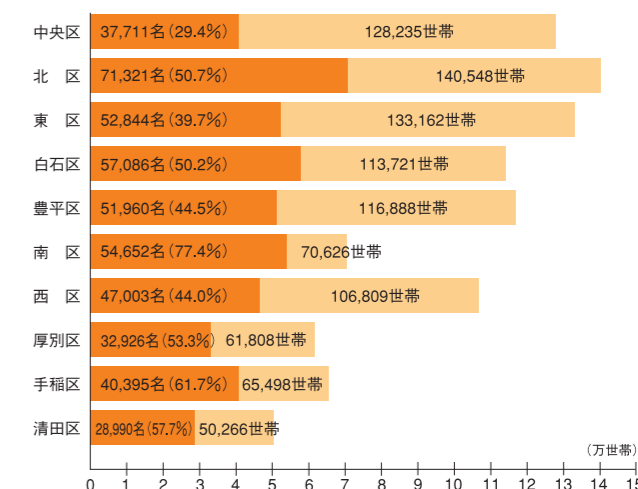


■年度別組合員動態

項目 年度	組合員数 (人)	前年比増加数 (人)	増加率(%)	
			対前 年比	2008年度 基準
2008	1,303,846	▲850	99.9	100
2009	1,331,835	27,989	102	102
2010	1,362,134	30,299	102	105
2011	1,391,552	29,418	102	107
2012	1,415,265	23,713	102	109
2013	1,490,640	75,375	105	114

※2009年3月20日、住所不明・未利用者33,182名を法定脱退処理しました。  
 ※2010年3月20日、住所不明・未利用者5,853名を法定脱退処理しました。  
 ※2011年3月20日、住所不明・未利用者1,249名を法定脱退処理しました。  
 ※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。  
 ※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率



事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8(帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌)

店舗

108店舗(2014年3月20日現在) 28市17町

札幌市	26店舗	富良野市	1店舗	根室市	1店舗
江別市	2店舗	留萌市	1店舗	釧路町	1店舗
北広島市	2店舗	函館市	9店舗	白糠町	1店舗
石狩市	1店舗	北斗市	1店舗	中標津町	1店舗
千歳市	2店舗	苫小牧市	5店舗	北見市	3店舗
小樽市	3店舗	伊達市	1店舗	網走市	1店舗
余市町	1店舗	木古内町	1店舗	遠軽町	2店舗
倶知安町	1店舗	幕別町	1店舗	美幌町	1店舗
岩見沢市	2店舗	むかわ町	1店舗	帯広市	2店舗
美幌市	1店舗	白老町	1店舗	室蘭市	2店舗
夕張市	1店舗	新ひだか町	1店舗	赤平市	1店舗
旭川市	8店舗	浦河町	2店舗	別海町	1店舗
深川市	1店舗	えりも町	1店舗	登別市	3店舗
砂川市	1店舗	様似町	1店舗	恵庭市	1店舗
滝川市	1店舗	釧路市	6店舗	福島町	1店舗

コープ宅配システムドックセンター

25センター+5デポ(2014年3月20日現在)

生産工場

江別生鮮加工センター
石狩食品工場
配食白石工場
配食苫小牧工場
配食旭川工場
配食釧路工場

子会社

コープフーズ株式会社
シーズ協同不動産株式会社
コープ協同不動産株式会社
シーズ協同開発株式会社
コープ協同開発株式会社
株式会社エネコープ
コープ協同保険株式会社
北海道はまなす食品株式会社
デュアルカナム株式会社
有限会社コープ協同サービス
有限会社ドリームファクトリー
株式会社道環
株式会社大雪水資源保全センター
北海道ロジサービス株式会社

'13年度の新店

'13年8月	月寒ひがし店(札幌市)
--------	-------------



▲月寒ひがし店(札幌市)



▲大雪水資源保全センター(東川町)



▲フリエホール つきさむ(札幌市)

リサイクル施設

エコセンター
--------

葬儀場

フリエホールつきさむ
------------

第三者意見



天使大学看護栄養学部  
栄養学科 教授

荒川義人氏

コープさっぽろCSRレポート2014から、コープさっぽろが「安全・安心」というコンセプトを大切に、実践する数多くの事業を展開していることがわかりました。

まず、「安全・安心」な地域社会づくり。わが国では、高齢化が急速に進展し、社会問題となっていますが、北海道においては、そのスピードは全国を上回り、問題がさらに深刻な状況にあります。

このような中、'13年2月、コープさっぽろは北海道と包括連携協定を締結し、森林づくり、子育て支援などに加えて、「安全・安心」な地域づくりに取り組んでいます。具体的には、道内の過半数の市町村(90市町村)と「見守り協定」を結ぶという実績に加え、宅配事業関係職員に「気付きの力」を高めることを今後の目標に掲げています。実際、職員の方が訪問した時に、組合員様のご様子が普段と違うことをキャッチし、迅速かつ適切な対応で組合員様の命を救うことができた事例が紹介されていますが、いかにこの取組が貴重なものか容易に理解することができます。特に高齢者の「安全・安心」な暮らしを確保するために、今後の宅配事業を中心とした関係職員の方々と組合員様の「見守りの輪」の拡大、充実に期待したいと思います。

次いで、「安全・安心」な食の提供。おいしく、便利に、安心に、豊かな食卓を演出するための「おいしいお店」のリニューアル、安心と高品質を求めるニーズに対応するための商品開発や食の情報発信、「お

まかせ便カケル」の増便など、食にかかわる事業を積極的に展開されています。

その中で特に注目したのは、「エゾシカ肉」の安全な供給体制の確立、および「アレルギー対応食品」の取扱い強化の2つの事業です。道内における年間農業被害額は60億円以上とされるエゾシカの被害対策は、北海道農業にとって喫緊の課題です。その課題解決に向けて北海道庁との意見交換を進め、鍵となっていた安全な「エゾシカ肉」の流通システムを確立し、販売を開始したことは、農業被害対策としての効果が期待できるばかりでなく、地域の食材を生かした食文化の構築という面からも意義深い事業としての発展が期待できます。

一方、食物アレルギーの子どもが増加傾向にある現状において、アレルギー対応食品のコーナー設置店舗数と対応食品数を増やす取組は、アレルギーに悩む子どもに「安全・安心」な食を届け、子どもを守る貴重な事業といえます。

そのほかにも、買物中の「万が一」に備えたAEDを全店に設置、災害時における救援物資管理配送に関する江別市との相互協定締結など、いずれも「安全・安心」を地域に広げる事業が展開されています。子どもから高齢者まで、皆さんが一層「安全・安心」に暮らせる街づくり実現に向けて、自治体をはじめ、企業や各種団体と連携しながら進めるコープさっぽろの事業の今後の展開に注目していききたいと思います。